
終わりよければすべてよし!! step2

兎桜のリア友だと思ふ人物

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

終わりよければすべてよし！！ s t e p 2

【Nコード】

N7077I

【作者名】

兎桜のリア友だと思っ人物

【あらすじ】

『前回、短編ででしたが、人気がありませんでした。でも、友人その1が五月蠅いので連載スタートです。（→の行いらくなくね？

なんか、ふざけてますが暖かい目で見守ってやってください。』
by 兎桜

書いてるのは、兎桜のリア友です。

「戻る為に冒険だ!!」 b y 海馬（前書き）

おはこんばんわ。（おはよう、こんにちわ、こんばんわ）
そして、旅立つ兎桜のリア友。

→気にしないでください。

「戻る為に冒険だ！！」by海馬

とりあえず、城に連れて行かれた俺は、王に、どうやってここに来たのか、説明した。

王「そうだったのか、お前は、いますぐ、元の世界に戻りたいのか？」

海馬「あたりまえだ、早く帰って、こんなバカな世界に居られるか！」

兵士1「王に向かって、なんと云う暴言を！！！」

暴言じゃねえし…

王「まあ、いいではないか、それでなあ、お前の願いをかなえる事が出来るかもしれん」

海馬「まじか！？」

王「ああ」

よっしゃああああ、まじでやったぜ、こんなバカな世界にいたら、元の世界のほうが、いい気に決まってる。

王「では、お前の旅に、お供を連れてやろう。出でこい」

だれだあー、また、さっきの兵士とかじゃ、ないだろうな。

「はい」

「はい」

はいの声じゃ、わかんねえよ……

「ぼくの、名前はアックス・レイダーです」

モンスターの名前じゃねえか……

「私の名前は、ヘル・ブランドです」

こいつも、モンスターの名前じゃねえか……

王「じゃあ、さっそく、旅の準備をしろ」

レイダー・ヘル「へえええええええええ」

俺も、旅の準備をした、腹も減って、ガツガツ食べて、寝た。翌日、俺は起きた物の、あとの二人は、まだ爆睡中……このまま置いてこうと思ったら、

「.....」

足音だ、

「..... $T_{\#}T_{\#}T_{\#}T_{\#}$ 」

大きくなってきた！！！！！！

レイダー・ヘル「おまたせ」

海馬「お前らバカか！！！！！」

王「では、私が言ったように、まず、ダイアラックに行き、私の友人、スランに会って、話を聞いてもらえ」

海馬「わかつた」

王「では、気をつけて」

海馬・レイダー・ヘル「おおお。」

で、俺の旅が始まった。

海馬「しかし、あの王様、気がきくなあ。馬車をくれるなんて」
レイダー「俺が、海馬君と友達になるんだ〜〜〜!」
ヘル「いや、私が海馬さんと友達になるの!」

けんかだ……………

まあ、俺は止めずに、馬車を運転する…。

それから、10分後…………

海馬「まだやってるのか!!!!!!」
レイダー「海馬君は止めないで!」

ウザクなってきたので、

『トラップカード、サンダーブレイク発動!!!!!!』
レイダー& amp; ヘル「うぎゃあああああああ、走馬灯の
用に見える」

ようやく、あらしいは治まってきた。だが、俺は胃が痛い…

これから先、どうなるのだろうか…

「戻る為に冒険だ!!」 by 海馬（後書き）

更新は、とても不安定です。

といって、リア友が飽きたらおしまいです。

読まないのが身のためです。でも、友人が飽きたら、自分が書きま
す。

飽きた次の話で無理矢理完結させるだけですけどね。

『白の剣と黒の剣』もよろしく!!

「すべてよし」by海馬（前書き）

何度でも言います。

これは、自分が書いていません。

よって、これを読まないでください。

「すべてよし」by海馬

前は、王様から馬車をもらい、二人の誤嚥^{しえん}がつき、旅にでた。

海馬たちの旅の先は、険しくなりそうです。……

海馬「うー……ぎゅうー」

ヘル・レイダー「大丈夫？」

海馬「大丈夫じゃねえよ！お前ら、食料食いすぎだ！三日で終わるなんて！おかげで俺なんか、3割も食ってねえし……」

ヘル・レイダー「ゴメンなさい」

あやまる感じがねえ……

海馬「お、町が見えたぞ。」

ヘル・レイダー「わーい、町だー」

海馬「ムカツ！滅びのバーストリーム……！！！！！！！！」

「ぎゃああああああああああああああ」

やつとおさまった……

さあてと、町についたし、ゆつくりと……

「悪い子わ、いねえかあ」

「こらあ　！！！！！！！！」

ボコスカ！！！！！！！！

「しゅうつうつうつうつうつ」

「ん？」

町の人が、家の中に隠れた。さっきのを見てビビったのか？すると……

「クセモノはどこだ！！！！！！！！」

やば！軍があゝ動き出した！！！！！！！！！！

「おい、ヘル・レイダー、逃げるぞ！！！！！！」

「なあに？ご飯？」

「とにかく、逃げるぞお!!!!!!!!!!」

俺達は逃げた、すっげ逃げた、その時、

「こっちにきな」

声がした、俺はヘルとレイダーを引きずりながら、声のするほうへ行った。

「あんたは、一体？」

「私の名前が聞きたいかね？」

なんか、むかつく……

「聞きたい」

「分かった、遊戯ボーイ」

はやおしえる

「私の名前は、エクスカリバー」

ここからはウザイので読み飛ばしてください。

エクスカリバー「私の伝説が始まったのは、十二世紀だ、あの日は、日差しの強い真夏^{まなつひ}日だったかな？いや肌寒くなる秋だった。

当時は私も悪でね、そういえば、もう冬だったかもしれない、すごく悪でチマタでも有名だったよ、美女達は、みんな私の取り合いをしていたよ。

そう記憶している私はまるで、研ぎ澄まされたナイフのような男だったよ。でもなぜか気品を感じさせていた。

みんな言っていた。いまでも言われてる、でもやつぱり、すごかった、ただ悪だった、それもこれも、ある冬の日、それでは、伝説をかたつてやろうか。」

海馬「お前、むちゃむちゃうぜえ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!ぶっ殺してえ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

ヘル・レイダー「ウザイ、ウザイ、ブーブーブー」

エクスカリバー「その前に五分間休憩だ、正座して待ってくれたまえ。」

| - - - -

どうでしたか？

新しい登場人物ができました。そのウザさはやばいので、みない
てください。

「すべてよし」by海馬（後書き）

次回はあるか分からない…。
書いてる奴の思考は読めない…。

「伝説を語る者は、とてもウザイ」（前書き）

いやゝ評価あります。（＾　＾）１話は急にデュエルに入ったので、自分でもおかしいと思いました。（笑）兔桜さんがこうゆう歌を歌っていました。

題『おやつはピーナッツチョコレート』

ピーナッツピーナッツピーナアゝゝツ

おやつはピーナッツゝゝ

中身と外身で半分こ

今日のおやつはピーナッツチョコレートー

ピーナッツピーナッツピーナあゝツ

おいしいピーナッツゝゝ

明日のおやつは……ポテチ！！

そうさ、おやつはポテチの時代

チョコピーなんて古いのさ！

裏切りゴメーンね（裏声で）

これを歌う場合は出来るだけ人がいないところで歌ってください。
兔桜の友人でした！！
本編もどうぞ！！

「伝説を語る者は、とてもウザイ」

え、前回は、エクスカリバーとゆう、ウザイキャラが登場しました。これからもう、エクスカリバーがウザイことを言うので、そことばしてください。

おねがいします。

「エクス」さて、遊戯ボーイ、私とデュエルをなさい。」

海馬「そんな暇じゃない！こっちは！」

ヘル「そうだそうだ！そうだ！」

軍「あ、あそこにいたぞ！」

海馬「逃げろおおおおおおおおお！！！！！」

! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! !

まずい！このままいっとデュエルしたら軍に捕まってしまう！

!!!!

「エクス、私に任せなさい！！！！！！！！」

お、なんだ、何かするのか？」

エクス「オシリスの天空竜……！！！！！！！！！！」

なにいいいいいいいいいい、なぜこいつが神のカードを!？」

軍「ぎゃああああああああああああああああああああああ

「あああああああ」

「エクス、何とか、倒せたぞ……っ、いない!？」

海馬・ヘル・レイダー「トonzラだあ ああああああ！！！！！！」

!!!!

エクス「逃げるなあ！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！」

あ、まずい！このまま出て行ったら、食料に困る……！こうなった

ら！

「おばちゃん食料5ヶ月分ください！」

「はい、5万Gね」

高いけど、そんな事言ってられるか。

俺は5万G払い。急いでヘルとレイダーを馬車に投げ込み、町を出た。

ちなみにあその町はマグドリアとゆう町。ダイアラックはその次の町

「ふー、やっと町から出れた…って何でお前が！？」

「私が来て悪いかな？」

「大有りだ！さっさと降りろ！」

「そうはいかないよ」

「なんだと？」

喧嘩が始まった…

10分後…

まだ、やっている。

20分後…

まだもや、やっている。

30分後…

物凄く、やっている。

そして……

「はあはあ、テメエ！はや降りろ！！！！！！」

「降りません」

「チエ！かってにしる」

「ありゝ^^（笑）」

それからとゆうモノ、またにぎやかになってしまった。

――――

さてどうでしたか？今日の話は？

さて海馬の先の旅はどうなってしまつのでしょうか……

終わりがければすべて良し！！

「伝説を語る者は、とてもウザイ」（後書き）

さて、次回は、ダイアラックに着きましたが、その町が、とても、ヒドイ町でした。町の人たちが皆石になっていました。そして、スランとゆうおじさんだけ、石になっていませんでした。一体どうなってしまうのでしょうか？

題『明日はクロック』

あしたの、クロックで

朝起きて

寝風呂ング

バイバイバイ

ひよろひよろひよろ。

評価してくれた人アリガト。

以上、兎桜のともダリでした。

「歳をとつても老人は、元気」by海馬（前書き）

けん玉の歌

喧々けん玉

喧嘩しながらけん玉

喧々けん玉

大会間近だけけん玉

喧々けん玉

優勝者へは、俺だけよ

「歳をとつても老人は、元気」by海馬

え、前は、エクスカリバーが仲間になって、旅は続行。
今回の話は、前回の予告でいましたように、町の人々が石になってい
ます。

今回もよろしく願います。

（うー、やっぱり、ずっと馬車を運転してるとつらい……………）
（誰が変わって）

そんな事を思いながらも、海馬は必死に、馬車を運転した。

……

10分後…

「お、ダイアラククが見えたぞ、さあ、降りるぞ……………って！何して
るんだ、お前たち！」

「何してるって？決まってるじゃん、ご飯食べてる。」

「そうだぞ、遊戯ボーイ。」

お前には、聞いてない

「早く降りろ。もう着いたぞ。」

「ねえ、海馬君、今日何曜日？」

「今日は火曜日だ……………てかなんで曜日聞くんだよ。」

「そうかあ、今日はカレー曜日かあ。」

「人の話聞け……………！」

「マジックカード！ハーピィの羽箒……………！」

「ぎゃあああああああああああああ」

「さてと、早く行くぞ」

海馬たちはダイヤラックにようやく着いた。

「な、なんだあゝこりゃあ!」

そう、町の人は皆石になっていた。

「遊戯ボーイ、シーンパイないさあゝ」

お前が一番心配だ・・・

「ねえ、取り合えず、町を回ってみよ。」

「そうだな、ヘル……」

海馬たちは、それぞれ2手に別れて、町の中を回った。

そして30分後……

「どうだった?何かあったか?」

「海馬君、こつち来て。」

「どうした?」

「ほら、あそこに人が。」

「ホントだ、…あれって、スランじゃねえか!」

その時!

いきなり、仕掛けのようにクナイが家の窓から出てきた。

「逃げるおおお。」

「誰じゃ、わしの家を除くやつは!」

「私です。」

「って、オイ!……!!。何正体ばらしてるんだよ!」

「お、どうやら、あなた方が城の命令で、呪いを解くんですな。」

「は、はい……。」

「なら、始めにデュエルで勝負じゃ!」

「あーあ、しゃあねえなあ。やるよやるよ!。」

「その前に一つ聞く。」

「なんじゃ？」

「何で、あんただけ石になってない。」

「それは、わしに勝ってからじゃ。」

「そうか……じゃ、うけるぜ。ヘル下がってろ。」
「はい。」

デュエル！！！！！！

老人は歳をとっても元気後編

今から後半の話です。

海馬はどうなってしまつのか。

――――

「ワシのターン、ドロー」

「ワシは、サイバードラゴンを召喚！」

攻2100

守1000

「ターン終了じゃ」

「俺のターンドロー」

俺の引いたカードは、ライティング・ボールテックス

「俺は、漆黒の戦士・ワーウルフを召喚！」

攻1600

守600

「カードを二枚セットして、ターンエンド」

そして、激しい戦いが津続き、

数時間後……

「ハーピイの羽簾発動！！！！」

「さらに、サンダーボルト！！」

「最後は、デーモンの斧を合成魔獣・ガーゼットに装備！！！！」

+1000で

攻15000

守0

「トドメだあああああああ！！！！。」

「うぎゃあああああああ」

ライフ8000から0

「すまぬかった、旅人よ、私は気を失っていた。」

「邪悪な者に取り付かれていた。」

「で、ワシになんのようだ？」

海馬たちはこれまでの話をした。

「ほほう、それでワシの所に来たとゆうことだな。」

「うん、なあ、頼むぜ、早くこの世界から出してくれ。」

「海馬君を助けてやってくれよ。」

「分かった分かった、元の世界に戻してやるよ。」

「じゃああああああ。」

「まずな、この洞窟に行つて、石版を取りにいきなさい、そして、石版を集めたら、洞窟の何処かに石版をはめる場所があるはずだ。」

「ほいじゃ、そこの洞窟に行けばいいんだな、行くぞ！……！！！」

「オー！！！！！！！」

次回に続く！！！！！！！！

何故か幕落ちです（前書き）

ぼくもですねー、もっと書きたかったんですよねー、
あつてねー、かけなくなりました、
だけど事情が

何故か幕落ちです

えー、改める言葉ではありませんが、

小説がかけるようになり、兎桜さんの家に居候していました。

へコレ本当です、居候（小説を書くために、家に行き、泊まらせてもらいました

えーっと、まあこんなんで、続けていけるのもなんなんで、

このまま、とばしちゃって、

最終回にしちやいます

――――

海馬「いでよ、神のカード！オベリスクの巨神兵、」

アックス（緒おおおおおおおおおおおおおお）

スラン「す、すこいこいこいこいこい」

エクスカリバー「すごいぞ、ゆうきボー大おい」

?????「n a n n d e s u t o o o o o o」

(... 111111...)

.....
おーい

誰だ？

苦しい……

助けてくれ……

おい

海馬「……………つ！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！は……！」

アクセス「たいじょう部下」

海馬「言葉間違ってる、くたばってくれ」

デス・ザ・キット「クソウ、鬱だ、死のう……」

ここは？

城だよ、

そうか、じゃあな、

え？

かえらねえと

じゃあな、

וְיָשָׁב יִשְׂרָאֵל מִן־הַמִּצְרַיִם בְּחֹדֶשׁ הָאֶבְרָתָא

h?

どした？

つへへへへ、海馬お兄ちゃん

は？

デス「っはははあはははは、これあ、どっきりだったのさ」

……兎ウツそおオオオオおおおおおおおお

なんで、？なんで？？？なんでだーーーー？

俺、あんなに苦しんでたのに、なんで、ドッキリなの？？？？？？？

っふ

バカメ、お前の目は節穴か

とゆうwけでw

どつきりだt
った

何故が幕落ちです（後書き）

このあと、ドッキリとゆうことは嘘で、おらにのドッキリであり
海馬は、元の世界に戻りました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7077i/>

終わりよければすべてよし!! step2

2010年10月10日14時23分発行